

# お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもたちの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

# 厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

## 未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

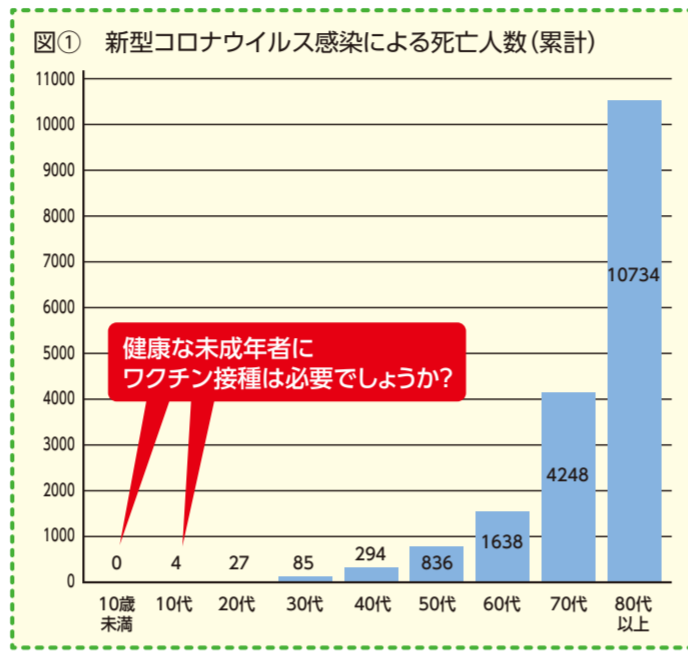
未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまで4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そして一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだと（東京郵発表。つまり、これまで「コロナ感染で死亡した健康な未成年者はたまたま1人もいない」、重症化もほとんどない）。

これまでもオミクロン株をめぐり新たな変異株が出るたびに「健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか？」という問いが繰り返されてきた。1006人にも上り、そのうち

重篤者は387人、後遺症8人、死亡者5人。20代も含めると副反応疑い報告が7006人、重篤者1000人、後遺症28人、死亡者32人にも上る。すでに本末転倒な状況に陥っているのかもしれない。

この状況を招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者運に自らの命や健康を賭けさせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

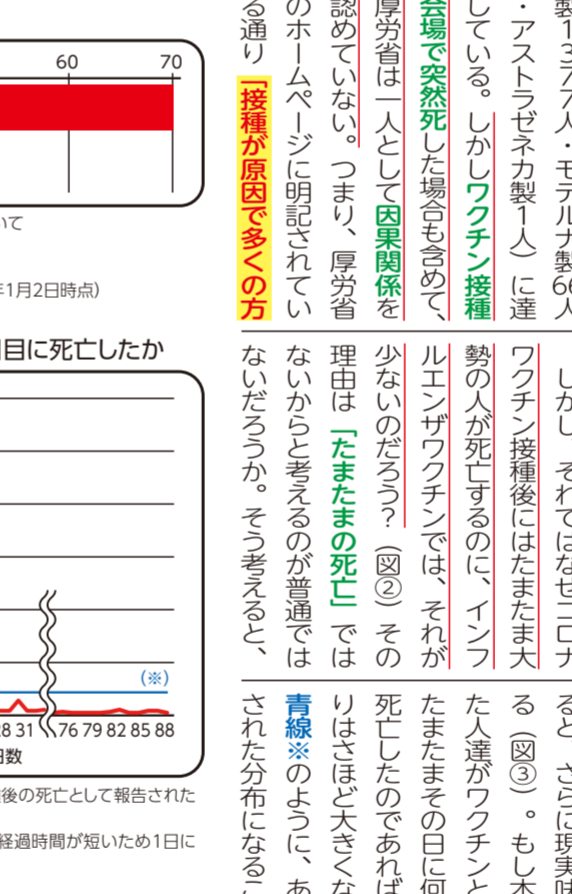


※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(令和4年1月18日24時時点)

## ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない？

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人（ファイザー製1377人・モデルナ製66人・アストラゼネカ製1人）に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含まれていない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り、接種が原因で多くの方が亡くなったというにはあきまりません。」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にたまたま大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか。その理由は「たまたまの死亡」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、接種が原因で多くの方が亡くなったというにはあきまりません。」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。



※接種後の人数は令和4年12月21日までの

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまつたため、厚労省も今後数年に渡って何が起るか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生体機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分

が確実に卵巣や精巣上体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「不妊にならない」との記載は言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるといふ科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

これについて前出の井上康大府立大学名誉教授は「ワクチン接種は始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されることしたら、これから数年～数十年後のことである。何らかの異変

や有害事象が起る可能性は否定できない。臨床試験中の実験、試験とは違うものであり、動物実験で危険性が示唆されている治療薬を生体世代に接種するに自覚、極めて非常識である」と警鐘を鳴らし続けている。すに「全国の医師300人が連名でワクチン接種中止を求め、厚労省に提出している

が、今後もし健康被害が増えれば、大規模な薬害事件に発展する可能性もある。最後に想像してほしい。もしあなたの子どもや孫がワクチン接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか。また「因果関係なし」という発表に納得できただろうか。そして子どもに接種を勧めたことを後悔しているのではないだろうか。

## ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことにはありませぬ」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛研研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経した生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったり、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

り、自身のプログラムで「治験が省略されることなく実施され、長期的な安全性について特段の不安がある」ということはありませぬ。」と断言している。ところが事実とは違っていて、厚労

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまつたため、厚労省も今後数年に渡って何が起るか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生体機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分が確実に卵巣や精巣上体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「不妊にならない」との記載は言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるといふ科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

が、今後もし健康被害が増えれば、大規模な薬害事件に発展する可能性もある。最後に想像してほしい。もしあなたの子どもや孫がワクチン

接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか。また「因果関係なし」という発表に納得できただろうか。そして子どもに接種を勧めたことを後悔しているのではないだろうか。

# 本当に必要ですか？

## 子どもへのワクチン

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 101,809,392円(1月24日8時20分時点)

右QRコードからご覧いただけます。

<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見・ご感想をお寄せください

メール [mail@dbank.jp](mailto:mail@dbank.jp)

株式会社ゆうネット  
新型コロナウイルス関連情報発信センター  
代表取締役 堤 猛 (ご意見はメールよりお願いします)  
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」 井上正康先生講演会動画

おすすめ最新書籍 (参考文献)

まんがで分かりやすく解説! 「ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」(扶桑社) 著書: 小林 よしのり (2021年11月18日)

接種後の死者は1200人超

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。